令和3年度第3回浜田市男女共同参画推進委員会　会議録

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 令和3年度第3回浜田市男女共同参画推進委員会 |
| 開催日時 | 令和3年11月24日（水）13：30～15：20 |
| 開催場所 | 浜田市役所本庁　講堂AB |
| 会議の担当 | 地域政策部 人権同和教育啓発センター |
| 議　題 | １　浜田市男女共同参画推進計画（第4次）素案について |
| 公開・非公開 | 公開 |

【出席者】委員：9名、

　　　　　事務局：4名

【傍聴者】1名

議題１　浜田市男女共同参画推進計画（第4次）素案について

|  |  |
| --- | --- |
| 委員  事務局  委員  委員  委員  委員  委員  事務局  委員  委員  委員    委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  事務局  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  事務局  委員  事務局  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  事務局  委員  事務局  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  事務局  委員  事務局  委員  委員  委員  委員  委員  委員  事務局  委員  委員  委員  委員  事務局  委員  事務局  委員  事務局 | 過去2回の会議で委員の皆さんに熱心に意見を出していただき、事務局には柔軟に対応してもらい、今回（事前配布された修正案を）拝見し、本当にとても良い計画になったと思う。  今回のメインの議題は、計画のサブタイトルについてである。サブタイトルがメインタイトルの意味を持っていると思うが、このサブタイトルが決まれば、中身の修正点も整理されると思うので、このタイトルについてしっかり議論していただきたい。  本文の内容の検討については、これが最後の委員会となる。必要があれば委員会開催となるが、今回の委員会で皆さんがご納得いただけるような計画書ができればと思う。  まず、タイトルについてだが、良い案を沢山出していただいた。事務局からタイトルについて説明をお願いする。  　前回会議で男女共同参画推進計画というタイトルを変えてみてはどうかという意見、鳥取県の計画のタイトルが性の多様性に触れた良いタイトルだという意見、並記してあるタイトルを一つにしてみてはという意見等があった。今回タイトル案として提示したものは、委員の皆さんからの案と今までの会議の内容（男女だけではない色々な性差・性別による問題や事象を真剣に考えている浜田市の計画であるということが分かるタイトルにするべきである等）から事務局が考えた案を掲載している。  　まず、このサブタイトルにするか、メインのタイトルにするかを決めた方が良い。  　メインタイトルにする、サブタイトルにする、メインとサブを一緒にしたタイトルにする等、皆さんにご検討いただきたい。  　1点確認したいこととして、「まちづくり計画」とあるが、浜田市の方向性ということで、何を目指すかということになるかと思う。そうなると、タイトル案２のような「～を目指す(浜田)」として「男女共同参画推進計画」とすると分かりやすいかと思った。  何かこの計画でイベント（事業）をするとき、「男女共同参画推進計画」という固いタイトルより、（キャッチフレーズ的な）サブタイトルの方が市民に親しみ易いかと感じた。  「まちづくり計画」ではあるが、どちらかというと「人づくり」の部分もあると思う。そう考えると、タイトル案の2番、5番などがサブタイトルとして向いていると感じた。  自分も2番が良いと感じたが、タイトルとして少し長い。やはり、「人づくり」だと感じた。「人づくり」ができると「まちづくり」もできる。ただ、2番のタイトルはこれ以上短くできないかとも思う。事務局はタイトルを考えることに苦しんだと思う。  　そのとおりで、短くても伝わらない、色々詰め込んでも何の計画かということになる。  　誰をターゲットにするかでタイトルも変わるかと思う。  　逆に、タイトルに（余韻を持たせること）よって、どんな計画かと興味を持ってもらうという方法もある。  　啓発講座など参加してもらいたい層は日中仕事をしている人であるが、現実として参加しにくい。そうなると、職場関係をターゲットとして進めることが最短な方法であると思う。例えば、新入社員が産休申請した場合、それを認めないような発言があれば、せっかく学生時代に色々な制度利用について知り、男女共同参画等の知識を持つことができても、就職先の上司のこのような発言により、その職場の風潮に馴染んでしまったという人を何人か見てきた。  　啓発を進めるうえで委員会等を設け、浜田市の企業関係者から委員として就任してもらい、男女共同参画を推進するために取り組んでもらう等の働きかけも必要ではないか。  　計画としては、企業も一緒に推進していかなくてはならない。  　そう考えると、タイトルの文言は「人づくり」かと思う。  　サブタイトルがメインタイトルになることを考えると、①②③には、「男女共同参画」という文言が入っていないので、このままではメインタイトルにはならないと思う。また、気になったのが「誰もが」という表現で、計画の中にこの言葉が出てくるが、「みんなが」ではいけないのか。  　メインタイトルは「浜田市男女共同参画推進計画」で良いと思う。それは、国・県の法令や計画では「男女共同参画」という文言がついているからである。「浜田市」としての計画に対する思いはサブタイトルに入れた方が良い。  ただ、①～⑤はサブタイトルにしては長い。⑫が良いと思うが、「浜田市民の誰もが」を入れて、男女共同参画はメインタイトルに入っているのでなくても良いと思う。「社会づくり計画」の「社会」という言葉にまちも人も入っている、踏まえているとするならこれで良いと思うが、あえて「社会」を止めて「まちづくり・人づくり計画」とするのも良いかと思う。よって、「浜田市の誰もが参画する人づくり・まちづくり計画」を提案する。  　⑫のタイトルを「浜田市民」と限定した場合、浜田市民ではない人、ただ居住しているだけの人、働きに来ている人等のことを考えると、「浜田」だけで良いと思う。  　また、「みんなが」と「誰もが」だと言葉の重さを考えると「誰もが」の方が良い。  　メインタイトルはきちんと説明の意味があるサブタイトルが付くということが条件で「浜田市男女共同参画推進計画」で良いと思う。次にサブタイトルは、人権の計画と違うものと捉えた場合、男女共同参画でいう「人づくり」はやはり「性差・性別」による色々な差別的なことがあってはならないということがサブタイトルに謳われていないといけないと思うので、「性別にとらわれない」という文言が確実に入った方が良いと思う。  　「みんなが」と「誰もが」という文言に関しては、浜田市の計画であり、国などの計画でも「誰もが」という文言になっているので、「誰もが」のほうが良いと思った。  　「性差にとらわれない」という言葉が入っているものは、⑤、⑪。  　「まちづくり計画」、「人づくり計画」というタイトルの計画は浜田市の計画の中にいくつもあるので、混同されないようにしたほうが良い。男女共同参画の説明書きとなるサブタイトルが具体的で良いと思う。  　メインタイトルに「計画」とあるので、サブタイトルまで「計画」が付かなくても良いと思われる。  　浜田市の計画には「まちづくり」という文言は確かに多い。  　だからこそ、この計画ではあえて「まちづくり」という文言は使わないタイトルを考えた方が良い。  　⑪に⑩を加えたタイトルはどうかとも思ったが、そういう意見があれば聞かせていただきたい。  　「男女共同参画」という文言は国や県で決めているので、基本のメインタイトルはこのままにする。この計画に対する浜田市の想いはどうなのかといった時に、案として掲載してある「あなたも」「わたしも」「誰もが」の「あなた」と「わたし」には、男性、女性の意もあり、「誰もが」という言葉にはその言葉で表現できない人も含まれている、浜田に籍があるかないかということも含めてのことで、事務局はそういった意味をこのサブタイトルに込めて表現していると思う。メインタイトルとサブタイトルが掲載してある表紙の裏を見ると、このサブタイトルの説明書きがきちんとしてある。詳しい中身はこの説明にある。「あなたも」「わたしも」「誰もが」という表現のあるサブタイトルで自分は良いと思う。  　表の裏ページのサブタイトルの下にある『性別にとらわれない「誰もが」を大切にする浜田市でありたい』をタイトルにしても良いのかと思う。  　私もそう思う。この表紙の裏ページにこの内容が入って良かったと思った。この会議の最初に伝えようと思ったが、素敵に仕上がっている。  　「誰もが」を全面に出そうと思うと「あなたも」「わたしも」という文言はなくても良いかと思う。  　「あなたも」はみなさん、「わたしも」は自分、「誰もが」は男女の性別に関係なくLGBTの方も全て入っている。この説明は表紙の裏ページに入っているので、このサブタイトルで良い。  　メインタイトルに「参画」という文言があるので、サブタイトルには「参画」は入らなくても良いのではないか。これらのサブタイトルについて年代別にリサーチしたところ、若い年代からはタイトルが「固い」という感想だった。「認め合って共に参画する・・・」という表現を「多様性を認め合って」や「多様性を認める社会」などの表現を使って分かりやすい表現で考えられないか。  　令和4年度から令和9年度までで、この「多様性を認める」ということを根底に進めていくことになるので、これを踏まえてご意見をいただきたい。  　メインタイトルは他の方の意見と同じで「男女共同参画推進計画」とし、サブタイトルはそれを説明する柔らかいタイトルで、メインと文言が重ならないようにするとサブタイトルの意味がある。表紙の裏ページに分かりやすくまとめてあるので、この中にある文言を使うと分かりやすい。自分がこの内容の中で良いと思ったのは、1行目の『性別にとらわれない「誰もが」を大切にする浜田市（でありたい）』と、もし「目指す」ということを入れるのであれば、最後の行の「性別にとらわれることなく、誰もが自分らしく生活できる社会を」に「目指す」をつけると、この計画の内容とマッチすると思う。  　この表紙の裏ページにある内容はとても良いので、サブタイトルに活かしたい。  　前回の会議で、「男女」の考え方、「性差・性別」に関する考え方について、「計画策定にあたって」の中で謳った方が良いという意見があった。この中は、国・県の概要や浜田市の計画背景等を謳う部分であり、ここに入れるより、もっと思いが強いという意味で、目次の前、表紙の裏に入れたいという思いをこの形で表現した。  　この表紙の裏部分にあるのは、「会社理念」のようで良い。  　内容は検討するとして、構成については認めていただいたと解釈する。  　皆さんの意見を聞き、この表紙の裏ページからサブタイトルを取った方が、計画の名称として深みが出ると思った。内容が分かりやすいので、この文章の中からであると、最後の行の「性別にとらわれることなく、誰もが自分らしく生活できる社会を目指す」という文が良いと思った。  　分かり易いのは、最後の行の一文が非常に分かり易いと思う。「誰もが」を大切にするが、「自分らしく生活する」という「自分も大事に」という一文があって一番分かり易い。皆さんに「誰もが」をただ大切にするだけでなく、自分らしく生活してほしい、まちづくりに参画してほしいということが分かり易い。そうなると、この一文をタイトルにするとこの計画にマッチしているのではないかと思う。  　今までの計画では、「人を大切にする」という内容のものが多かったと思うが、この計画に「誰もが自分らしく」と謳ってあることで、「自分らしく」という社会の風潮からも自分を大切にして良いと思え、新しいと感じた。  　計画に対し、作り甲斐があると感じた。この計画を自分達が作ったと言いたくなる。  　この委員会は、素朴な疑問も聞き易い雰囲気があった。こういう委員会に市民が参加したくない理由は、緊張する雰囲気があり、意見が言いにくいからである。この委員会では、知らないことや自分の素朴な意見が言えた。周りの方もそういう人の意見を聞き、知らない人もいるという気づきをもってもらえた。お互いに気づきがある雰囲気があった。  　ここまでを整理する。  　タイトルは「浜田市男女共同参画推進計画(第4次)　令和4年度～令和9年度」。この下にサブタイトルを付ける。今挙がっている案は。「性別にとらわれることなく、誰もが自分らしく生活できる社会を目指す」とするか「目指す浜田市」とするか。『性別にとらわれない「誰もが」を大切にする浜田市』とするか。  　「浜田市」という文言はタイトルに「浜田市男女・・・」とあるので、サブタイトルに入れずにおいて、「・・・自分らしく生活できる社会を目指して」と「目指して」を入れるのはどうか。  　「目指す」とすると、そこに到達するとそれで終わる感じがするが、「目指して」となると、この先も続く感じが出て良いと思う。  　「目指して」とすると余韻があり良い。  　では、サブタイトルとして「性別にとらわれることなく、誰もが自分らしく生活できる社会を目指して」とする。  　そうすると、サブタイトルの中身はこの表紙の裏ページを読むとご理解いただけると思う。中身を読むと、この計画はどうなっているのかと興味を持っていただける。  　表紙の裏ページの中身の「生物学的にも性差がある」という「性差」と「性別」はどう違うのか。  　捉え方が少し違うところもあるかもしれないが、自分が調べた中でいうと  性差は、男性女性のそれぞれの体のつくり、骨格などの違いなど性別によって違いがあるのは確かである。生物学的性差とは、性別による役割ではなく、身体のつくりの違いやそれによる体力や体の状態の違いである。  　性別からくる身体的な特徴ということか。  　そうである。  　そう意味であるなら、性別と性差の意味は違ってくる。  　男性というグループ、女性というグループ等、性別のグループによる差という捉え方ではないか。そうなると、「生物学的にも」と「性差」という表現は違和感がある。  　「生物学的」という言葉はとって「性差」のみにした方が良いか。  　しかしここでは、「否定できない」ということが言いたいのであるのだから、「生物学的にも」という言葉はいるのではないか。  　広い意味でとると「生物学的にも」という言葉が入ると意味が狭められる。  　生物学的の性差も、脳レベルの性差もあるなど、「生物学的」という意味がどんどん変わっていくと考えられる。この部分の表現は難しいが、計画の期間に合わせて見直しされるので、その時期に改めて言葉の意味がこのままで良いか検討することになると思う。  　では、この一文は『生まれた時の体の性は「男性」と「女性」です、ということは事実としてあるので、性差は否定できません。』とすると、少し意味合いが違ってくるか。  　「体による性別は男性と女性があり、性差があることは否定できません」ということか。  　「生物学的」という言葉が入った方がイメージしやすい。  　体による性別と最初に謳っているので、「生物学的に」という言葉に繋がる。ここでは心の性のことには触れない。  　ここでは、「体には男性と女性があって、それは否定できない」ということから入りたいのであろうから、そうなると「生物学的」という言葉が生きてくるのかと思う。「生物学的に」とあれば、「体の作りとして」とイメージ出来て、  確かにそうだと思える。  　最初の1段落はなくても良いのでは。次段から本計画にはこういう背景があり、こういう思いで作ったと始まっても良いかと思う。  　こういう最初の部分はパブリックコメントにも意見が出やすいところである。  　自分はこういう記述の方が読んでみたいと思える。  　「性差」という言葉を止めて、「違いがあります」としてはどうか。  　その意見は良い。しかし、最初の一文はあった方が良い。そもそも  違いはあるというところからのスタートでもある。  　後段で、「性差の違いを正しく知る」という文言は出てくるが、これも「違い」に直した方が良いか。  　その部分は「性差」で良い。最初の部分を「生物学的にも違いがあることは否定できません」という柔らかい入り口とするか、先ほど意見があったように、1文目をとって、他の表現にするかだと思う。  　要するに、違っているということが最初に言いたいのであれば、1文目があった方が分かり易い。  　1文目があるから、細かく言うと2段目には「しかし」という言葉に繋がる文となるので、この1文がなければ、「しかし」から入ることとなる。そういうことから、「生まれた時の体の性は、男性と女性。生物学的にもちがいがあることは否定できない。（しかし）男性・女性等いう二つの言葉では・・・」として、「性差」を「違い」にした方が確かに分かり易い。  　「これらの言葉で表現できない人」も全てを・・・・・一人ひとりを尊重する「誰もが」とするまちづくりには不可欠です」という文など、この一文が入って本当に良かった。他市が参考にされるのではないかと思う。今までの委員会で議論したことが、この文章の中によく入っている。この計画を見て、浜田市に多くの人が来てくれると良い。  　素案の赤字になっている部分は、第2回推進委員会での指摘、ご意見を事務局が修正した部分である。検討した結果、計画として掲載しないものや誤字レベルのものも含まれている。７ページには、冒頭で「思い」を示したので、それに関わる「誰もが」や「男女」について、どういう時にそれぞれの表記を使うのかといったこと。目指すべき姿として表現する時には「誰もが」、どちらかの性別に向けての取組を進める時などに使う場合は、「男女」「男性」「女性」という言葉を使っているという説明を入れた。  　次に、意識調査に関わる内容を入れており、予定では資料として意識実態調査の設問や報告書を掲載することとしていたが、第2回の推進委員会でご意見があったようにページ数が増えるため、設問と報告書は別冊にしてはどうかと考えている。意識実態調査のページに関しては、報告書を別冊にする代わりに、その内容に応じたグラフを挿入することを考えている。  　別冊の良いところは、本文で気になった部分を資料として見ようとした時、本文と資料を並べて確認することができる点である。  　本文について、18ページの計画の施策体系図について、関係法令や条例について、図式化した。19ページから21ページはA3　1枚に掲載したものを、基本目標ごとにA4　1枚に掲載し直した。SDGsについては、カラーが分かり易いことからカラーのアイコンとする予定である。  　A3からA4　1枚ずつになり、分かり易くなった。  　30ページの具体的取組にある「生理の貧困に関する物資の供給」について、 |
| 委員  事務局  委員  委員  委員  事務局  委員 | トイレ等に生理用品を設置して、それをきっかけに相談の窓口へと繋ぐという取組を、県、社協が災害物資の備蓄品から供給という形でされており、市としても取り組むとしていたが、県に確認したところ、備蓄品がなくなった時点で物資の供給は継続としない。この目的は物資の配布ではなく、これをきっかけに、不安や困難を抱えている人を早期に発見し相談につなげることを目的としている。浜田市では、相談体制の周知と整備にしているが、県はこれがメインだということなので、本市も供給を削除することとした。  　良いと思う。  　32ページ、防災分野の女性消防団が必要なのではという意見があり、消防本部警防課を担当課として入れた。女性消防団の勧誘について警防課にヒアリングをしたところ、実動部隊として入団しておられる女性は1名。その女性団員を増やす取組を今後されるかどうかと質問したところ、実動部隊の男性消防団員も減少傾向で、女性団員を増やすことは容易ではないということだった。女性団員の主な職務は後方支援。今後消防団員を増やすといった場合、女性に特化してということはなかなか難しいとのことだったので、この計画には女性団員数の増加については取組として挙げないこととした。女性団員の方は、会議等でも意見をしっかり言われるということなので、今後防災会議などで大きな力となられるよう働きがけをしていくことも消防と考えていく。  　自分は女性消防団員数を増やすというより、防災会議に女性委員を増やしてほしいという意味で女性消防団員数の増加をと言った。女性消防団の方々は防災に関して知識のある人だと思う。防災会議だけではなく防災リーダーとして活躍していただきたいということ、火災が増える時期に男性、女性ともに消防団の方が、地域に広報活動等に出向いてもらえればと思い意見を言った。  　消防団についてアンケートをした時、(女性)消防団はあった方が良いという意見だった。それは、男性は日中仕事に出て家にいない場合が多く、留守宅にいるのは女性のため、初期消火活動などに対応するのは女性になるということからである。また、避難所開設について、以前市の職員が開設班として女性2名が来られた。この2名を一晩中配置されるより、我々地域ものが1時間ずつでもいた方が、（同じ地域のもの同士であることから）避難した人が安心して過ごせると思う。  　基本目標Ⅰのところはこれで良いとして、気になった点がある。26ページのDVの部分だが、「男女間における暴力」となっているが、男女間限定で良かったのか。  　男女間である。男性から女性への、または女性から男性への暴力ということである。パートナーも含める。  　パートナーとなると性的マイノリティの方のことも考えると、男女間で限定して良いかという確認で聞いてみた。 |
| 事務局  委員  事務局  委員  事務局  事務局  委員  事務局  委員  事務局  委員  事務局  委員  事務局  委員  事務局  委員  委員  委員  事務局  委員  委員  事務局  委員  委員  委員  委員  事務局  委員  事務局  委員  事務局  委員  事務局  委員  事務局  委員  事務局  委員  事務局  委員  事務局  委員  事務局 | 女性に対する暴力を防止する取組期間があるように、女性となっている。  　冒頭で「誰もが」や「性差」について謳っているので、「男女間」と限定して良いかと感じたため聞いた。  　5ページに、「浜田市DV対策基本計画」としての位置づけとしてあり、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に・・・」となっている。  　そのことが、計画に謳ってあれば良い。  男女の計画は78ページの「配偶者からの暴力の防止及び・・・」の法律が根拠となっている。この前文で「多くの場合は被害者は女性である」と記してある。この法律の中で「被害者とは配偶者から暴力を受けた者」となっていることから、「夫婦間」「男女間」が前提かと思われる。  　配偶者となっていることから婚姻関係のあるものとなり、パートナーはどうかというご意見もあると思うが、79ページに「婚姻届は出していないが事実上婚姻関係と同様の事情にあるもの・・・」と記してあるので、夫婦とみなされる関係における暴力についてということ。  　根拠となる法律に則ってこの表記にしたということあれば良いということになる。  　基本目標Ⅱ、Ⅲのところでは、第2回推進委員会で特にご指摘やご意見がなかったので、修正もない。46ページの推進体制について、前回図式で示したが、修正を入れた。51ページの進捗管理にある表現を使って示した。48～50ページの数値目標は担当課に確認し、数字を入れた。  　50ページの下から2行目は「あった」の「た」の字が入っていない。  　修正する。50ページの33番「ひゃこるねっとみすみ」については、会長から審議会の存続について確認するようにというご意見があったので担当に確認したところ、令和4年度までは存続するとのことから、この名称は残すことになる。  了解した。  続いて52ページの資料編について、アンケートの結果については別冊にするという案がある。  　役職が違うので訂正をお願いする。  　修正する。所属先の役職を入れた方が良い団体があるか。  　副会長であるが、ルールで順番制となっており変わることも出てくるので、役職を入れないままで良い。  　役職を入れないままとする。101ページの用語解説について、表に頁という欄を設けた。修正後最終的にページが確定した時に入れる。ページの入れ方については検討中である。  　用語に下線等引いて、「下線は用語解説参照」等を記述する等の方法がある。  　用語に数字を振り、用語解説1参照等の記載をすればどうか。  　用語解説をする用語全部に下線をひくのは大変である。  　最初に出た用語にのみ下線等引き、番号を振る等を検討してみる。  　本文についてはこれで異議なしということで良い。  　「きめ細やかな支援」は「きめ細かな」である。「ら抜き言葉」があったので、「ら」を抜かずに表記した方が良い。  　確認をする。  　「男女共同参画社会基本法」の「社会」が抜けている箇所があった。「性差」と「ちがい」の表記について、冒頭は「ちがい」に直すことにしたが、他の箇所については「性差」のままで良いのか。  　男女の偏見や不平等を解消については「性差」、思い込みや固定観念については「ちがい」という表現が良いのではないか。  　他の箇所は「性差による」で良い。  　本文はこれで良い。人権の計画は資料か。  　女性の人権や性的指向の人権の方について、「人権啓発」の計画にも記載しているということを示した資料である。  　アンケートについてはどう取り扱うか。  　計画に盛り込む予定だったアンケートの結果や設問を、計画に入れるとページ数が増えるため、別冊にする。  　了解した。今後のスケジュールについて説明をお願いする。  　今後の予定として、1月にパブリックコメント(市民からの意見公募)を1か月間設ける。議会の総務文教委員会で報告し、パブリックコメントをしているという報告をする。議員からの意見もいただく。2月予定として、各課に最終的な確認としてワーキング会議をする。今後、パブリックコメントで大幅な修正を要する場合は、諮問機関の第4回の審議会開催となる。会議開催を必要としない場合は、答申へと進む。  　第4回開催があるならば、パブリックコメントの後ということか。  　そうである。  　1月下旬から2月上旬か。  　そうである。大きな修正の必要がないものや、審議会で議論を尽くしその通り回答すれば良いものについては審議会を開催せず、そのまま確定とさせてもらい、答申に入る。2月に答申予定である。  　答申をして、ワーキング会議をして、議会に諮るのか。  　議会は出来上がったという報告である。  　答申が最後か。  　そうである。4月最初に広報で周知をする。ダイジェスト版は、3月末までに作成し、要所要所の機関に配布予定である。ダイジェスト版の内容については、まだ具体的に決まっていない。  　ダイジェスト版はターゲット別に作成するのか。  　当初予定では、1パターンである。  　今後何かご意見があれば、事務局の方へ言ってほしい。  　皆さまのおかげで、有意義な計画書作成に関わらせて勉強させていただいた。ありがとうございます。  　これまで3回の審議会で、皆さんに貴重なご意見をいただいた。自分も4月に来たばかりで初心者で勉強はしていたが、当初どうなることかと心配はしていた。皆さんに関わっていただき、ご指摘もあり、同感もしていただき、良い計画ができそうだと職員も手ごたえも感じている。計画案が確定するのは3月に入ってであるが、また市民の皆さんにご意見をいただき、委員の皆さんのご助言をいただくことがあるかと思う。また皆さんのご意見を男女共同参画だけでなく、人権や浜田市の行政に関することに関わっていただくようお願い申し上げる。 |

15時20分終了